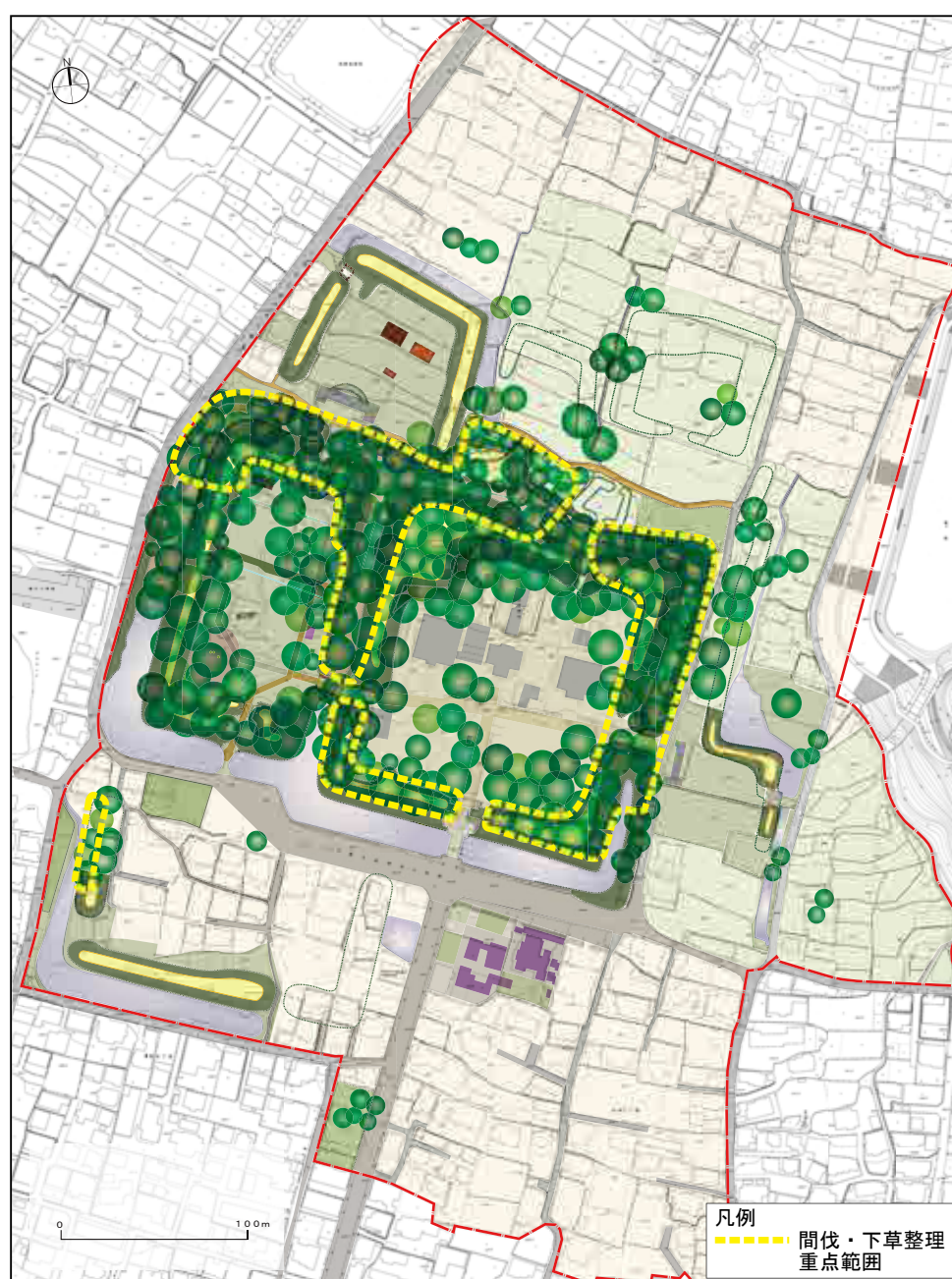


(7) 植栽（管理）計画

主郭・西曲輪の堀・土塁や石積みは館跡の主要な構造を今日に伝えている。しかしながら、現状では密集する樹木のために一望のもとに視認することが難しい。

現在までに、武田神社が主体となり大手門付近等の間伐や下草刈りを行ってきたものの、十分とは言えない状況である。

この計画では、遺構保護と館構造の顕在化を目的に、主郭の南・東・北面や西曲輪北面、さらに梅翁曲輪松木堀について重点的に間伐を行う範囲と位置付けて、更なる推進を図る。



植栽管理計画図 S=1:4000

(8) サイン計画

主要な遺構や設定した動線に従って、効果的にサインを設置する。

既設サインには複数の形状・仕様があるが、老朽化したものや破損したものも多い。この計画では大手門周辺ゾーンに設置したサインの意匠に統一したものとして、新設及び改修するものとする。

解説情報等のデジタルコンテンツを制作し、解説板にQRコードを付して利用者の携帯端末から閲覧するなどの方法を導入する。多言語化の対応についてもQRコードを利用する。

- ・総合案内板 維持：エントランスゾーンに設置している。
- ・曲輪解説板 維持：主郭・大手門東史跡公園
新設：稲荷曲輪・無名曲輪・御隠居曲輪・梅翁曲輪
改修：西曲輪
- ・遺構解説板 維持：大手門東史跡公園（4基）
新設：西曲輪（建物・門・堀）・味噌曲輪（西曲輪北馬出）
- ・誘導標識 新設
- ・展望地点 維持：竜華池（史跡の俯瞰）
新設：無名曲輪付近（要害山への眺望）、躑躅が崎遊亭跡（館跡の俯瞰）
- ・暫定解説板 維持：家臣屋敷推定地

史跡周辺の現状のサイン



武田神社南側 史跡説明板



武田神社南側 神社案内板



大手門東史跡公園 曲輪解説板



大手門東史跡公園 遺構解説板



大手門東史跡公園 遺構解説板



西曲輪北枅形虎口 遺構解説板



歴史館案内板



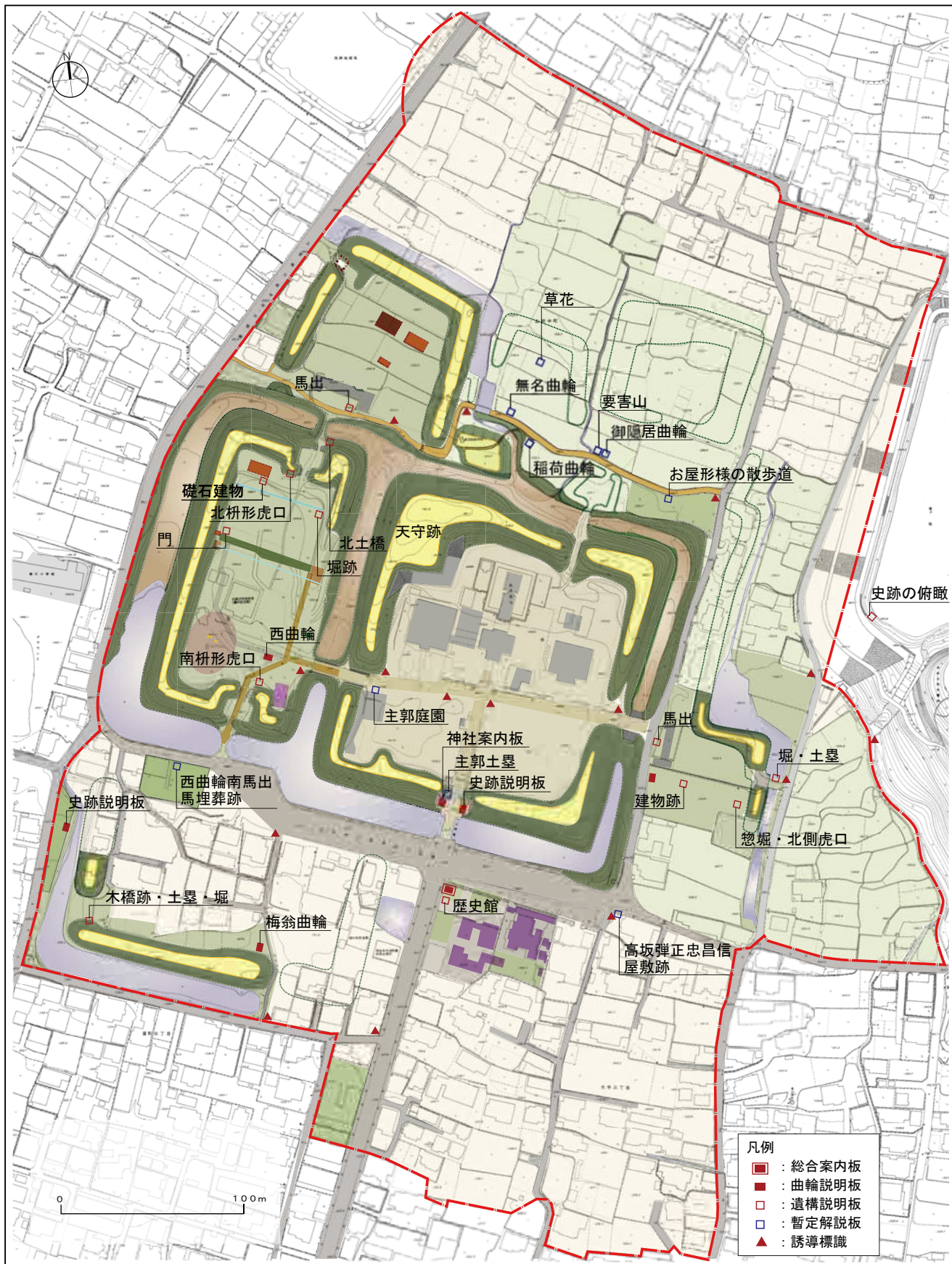
歴史館遺構解説板



暫定 遺構解説板



暫定 家臣屋敷地解説板（他機関設置）



サイン計画図 S=1:3000

(9) 便益施設計画

ア. 便 所

一般来場者が利用できる既設の便益施設として、武田氏館跡歴史館（休憩・便所）と西曲輪の公衆便所（武田神社）がある。史跡の整備対象範囲は概ね 12ha に及び、効果的に休憩及び便所を配置する必要がある。本計画においては史跡全域の回遊動線の創出を目指していることや、北側の各曲輪の活用を重視することから、御隠居曲輪南スポット緑地に便所を新設する。

便所の必要穴数は次の通りとなる（必要穴数の推計は資料編に掲載）。

男大：1 穴、男小：1 穴、女大 1 穴、多目的 1 穴（同時滞在 180 人まではこの穴数となる）

イ. 休憩施設

館跡全体を巡る動線の中で休憩の機能が必要となるが、12ha の範囲に対し現状の建築施設は武田氏館跡歴史館だけである。滞在型の活用を想定する北側の各曲輪では、緑陰樹を利用したベンチ等により補うものとする。

将来計画において味噌曲輪の復元的整備を検討する際は、四阿機能を考慮する必要がある。

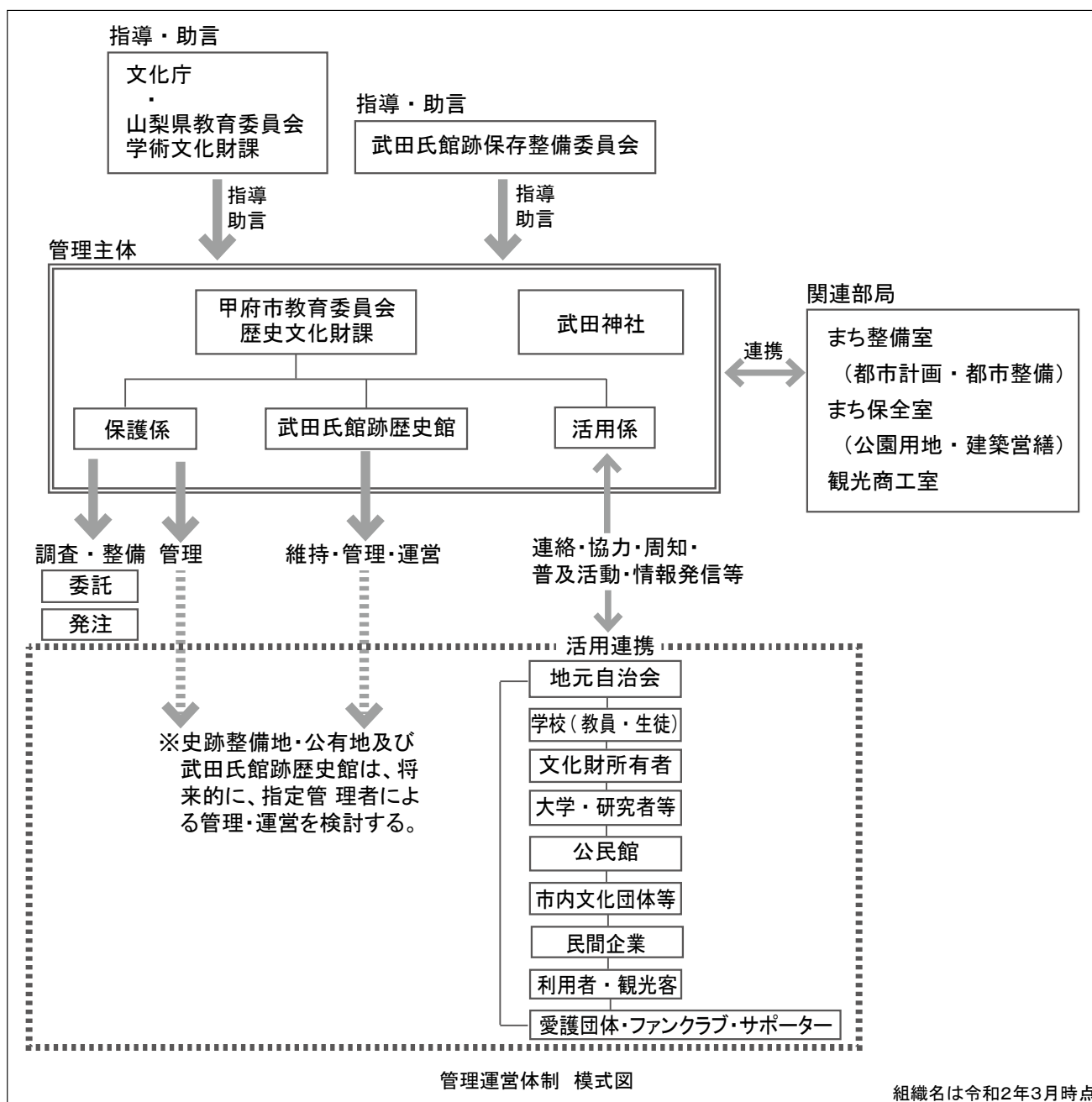
7. 管理運営計画

(1) 体制

基本とする体制は現状を踏襲して甲府市教育委員会歴史文化財課が事務局となり、史跡武田氏館跡保存整備委員会、文化庁及び山梨県教育委員会学術文化財課の指導助言を受けて実施する。武田神社所有地については神社が主体となり、事務局と協力して管理運営を行う。武田氏館跡歴史館と整備完了地等は将来的に指定管理者制度等の導入を検討する。

現在、事務局の史跡整備担当は3名であるが、今後は調査と整備の実施や管理に関わる業務を分掌すべく担当職員の拡充を図る。さらに、整備や活用に関わる関連部局との連携の強化を目的に、定期的に連絡会議を設ける。

また、行政と市民・地域等との「連絡・協力・周知・普及活動・情報発信」等を行いながら活用連携に向けてファンクラブやサポーターを創生し、関係者との協働体制を強化する。



(2) 維持管理

史跡の本質的価値に関わる保存管理は、平成6年10月に策定された保存管理計画に則り適切に実施する。

屋外施設・屋内施設とも、館跡全体を良好な状態に保ち快適に利用できる日常的な管理として、巡視・点検・清掃等を行う他、公開活用のための除草を定期的に行っていく。定期的な管理や中長期管理を計画的に実施する。ヤギを用いた除草の管理には市民や学校との連携が重要となる。

以下に、想定される基本的な維持管理の内容を整理する。

維持管理の内容

区 分		内 容
屋外施設	日常管理	巡回・巡視、点検
		清掃・軽微な修繕
	定期管理	除草、大規模清掃
		施設の維持修繕
		植栽の定期管理・地被の補植
	中長期管理	園路舗装等の部分修理
		堀・土塁の樹木管理
遺構表現施設・解説板等の修繕・更新		
ヤギの管理	ヤギを用いた除草・飼育管理	
屋内施設 (歴史館・便所・四阿)	日常管理	点検、清掃、消耗品補充
	定期管理	防火・防犯設備の保守点検
	その他	電気設備・機械設備の故障時の修理
	中長期管理	設備更新、外壁補修等

(3) 運営管理

運営管理は、来訪者が館跡を正しく理解し、興味を持って楽しく利用することを目的とした日常的な運営や各種のイベント等の運営など多岐にわたる。この運営には市民や関係団体との協働や参加が重要となる。今後、市民や関係団体が主体的に活動することも呼び掛けていく。

情報提供は史跡を広く社会に位置付けていくために重要であり、各種広報や展示解説、案内書の製作やインターネットの利用など、多様な手法により情報発信を行う。

運営管理の内容

区 分		内 容
a. 史跡の公開活用に関する運営管理		
日 常	来場者管理	来場者数・要望把握
	案内解説 (ボランティアガイド)	動線誘導、主要地点での案内解説 安全管理を兼ねる
	VR・AR関連	端末機器の貸出、使い方説明
イベント時	入場管理・案内	会場までの誘導、参加者数把握
	受付・料金徴収	必要に応じて、来場者・団体の記名、料金徴収
	安全管理	主要地点に人員配置
定期管理	展示解説	企画展示・展示更新・デジタルコンテンツ更新
b. 情報発信・PR展開		PRツール追加更新 広報・歴史学習・シンポジウム・市民講座等の実施
c. 地域連携、ボランティア・市民活動への支援等 ファンクラブ・サポーターの創生、愛好団体との協働		

8. 事業計画

(1) 事業工程計画

本計画は事業期間を10年とし、館空間を体感する場を創出するとともに史跡の回遊性を高めることを主目的に西曲輪と北側の各曲輪の整備を重点的に実施する。

早期に西曲輪の北馬出を整備し、神社主体事業で整備される西曲輪下段やその後に着手する上・中段整備の後、供用を開始し一体的な活用を図る。

計画期間の中期に無名曲輪・御隠居曲輪・字三角の整備を実施し、市民の活動の場として供用を開始する。味噌曲輪の土塁・堀・平場は、次期整備に向けて、計画期間の中期・後半に発掘調査を実施するとともに資料収集に徹する。

館跡全域について、植栽管理を継続して行うほか、解説板の更新・新設を順次実施し、武田氏館跡歴史館の展示やWEBの更新、各種のPR活動を通じて、リピーター及びサポーターの拡充を図る。

さらには古府中城下の案内解説施設の拡充やガイドツアーを充実させ、武田氏館跡を中心とした古府中の周知を図る。

計画年次 年度		1年次 令和2 2020	2年次 令和3 2021	3年次 令和4 2022	4年次 令和5 2023	5年次 令和6 2024	6年次 令和7 2025	7年次 令和8 2026	8年次 令和9 2027	9年次 令和10 2028	10年次 令和11 2029	11年次 令和12 2030
梅翁 曲輪	松木堀	整備工事	供用開始									→
西 曲 輪	下段 (武田神社主体事業)	整備工事		供用開始								→
	上段・中段		発掘調査			建物基本 設計・検討	実施設計	西曲輪整備工事				供用開始
	北馬出	設 計	整備工事		供用開始							→
味 噌 曲 輪	土塁・堀				発掘調査							実施設計
	平 場							発掘調査				
稲荷曲輪					樹木伐採	発掘調査 (味噌曲輪取付部)						
無名曲輪・御隠居曲輪		発掘調査			設 計	整備工事			供用開始: 植物育成・ヤギ飼育 イベント等			→
その他		仮設工						仮設便所				主郭北虎口 発掘調査
大手門周辺・字三角								字三角 造成工事	供用開始: 農業体験・大手門周辺と一体的なイベント等			→
全 域	植栽管理			主郭・西曲輪堀・土塁の樹木	継続実施							→
	解説板の更新・新設		更新・新設			→						
武田氏館跡歴史館			展示更新・WEB更新		AR・VR制作							→
古府中城下			案内解説施設の拡充		ガイドツアー							→
報告書(発掘)		梅翁 松木堀	味噌馬出	無名・御隠居	西曲輪上・中・下段			味噌土塁・堀				
報告書(整備)			梅翁松木堀									第3次整備

信玄生誕500年

信玄没後450年